

# 令和3年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

## 第1講 開講式、オリエンテーション

講師及び担当：名和田学長、山路講師、藤村（ナビゲーター）森（サブナビゲーター）

日時：令和3年7月17日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）  
参加者：7期生（8）、学長、講師、ナビゲーター（5）、緑区社会福祉協議会（1）、  
サブナビゲーター（3）、事務局（3）  
合計：22人（Zoom参加：6人）

### ●学習目標

1. スクールの開講の主旨を理解する。
2. 全6講の講座の流れと内容を理解する。
3. 横浜市における市民活動の事例を知る。
4. 自己紹介を通じて仲間との交流を深める。



名和田学長 基調講演

### ●内容

1. 開講の基調講演「地域活動・市民活動への誘い」  
～横浜の豊かな市民社会にあなたも参画しよう～
  - ◇自治会、地区別計画、助成金等の活動の基礎的な知識の習得
  - ◇行政との協働による具体的な市民活動の事例説明
  - ◇市民活動の20年の変化／居場所づくり／コロナ禍での取り組み
2. 自己紹介
  - ◇講師、運営スタッフ（ナビゲーター、区社協、サブナビゲーター、事務局）各自1分の自己紹介。
  - ◇7期生一人2分で自己紹介（Zoom参加の1名が第2講で自己紹介予定）
3. オリエンテーション
  - ◇全6講の全体の流れと、目的や学び方、「夢プラン」策定の手順について説明
  - ◇地域づくりの着眼点と基本的な考え方とコロナ禍での地域活動



山路講師によるオリエンテーション



会場の様子

7期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」などをご記入ください。

- 地域活動について知らないことばかりであるという事を認識しました。何人かで「夢プラン」を作り上げるができればと思います。
- 市民が個人的に取り組んでいる市民活動がいろいろあると感心しました。私も仲間を増やしていきたいと思います。
- やりたい事がたくさんあるので、整理し、取捨選択して活動に生かしたい。
- コロナ禍でも元気に地域活動をするための様々な工夫がされていた。また、子ども、若者も主役になれる事を聴いて、自分も何かできないかと改めて興味が湧いた。
- オリエンテーションの中で、「地域」はどんなことでも「福祉」につながっているという言葉に衝撃を受けた。学長や講師の他にスクールにはたくさんの方が関わっていることを知り心強く感じた。
- スタッフの皆様との出会いから得るものがたくさんありそうで今後は楽しみです。
- コミュニティカフェ等に興味があります。現在緑区でそうした場所があれば知りたい。スクールで自分ができる事を探していきたい。
- 少しずつ地域の情報を交換できたらよいと思っています。興味が湧きました。



#### コメント欄（担当ナビゲーター：藤村）

- 開講式のアンケートの集計から満足度は92.7%となり昨年より向上した。
- 今年度の受講生も9名と少ないものの10代の参加者のいることが特筆できる。大事に育てていきたい。
- コロナ禍での2年目の開催となった。昨年のZoomのノウハウが生かされた円滑な運営になっていた。全員の検温、マスク着用、ソーシャルディスタンスも守られていた。
- 7期生は、はじめの第一歩を踏み出そうとしており、まだ頭の中が整理されていない受講者もいるので適時アドバイスを行っていきたい。
- スクールの目的の理解が浅い受講者もいるので、本スクールの主旨である「私ができること」「私がやりたいこと」「地域の課題」の三つが重なったところを“見つけて”具体的なプランを作成できるように接していきたいと思う。

# 令和3年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

## 第2講 街の資源を知ろう、7期生と語ろう

講師及び担当：山路講師、松岡講師（環境創造局）、金子、渡部（区社協）、野場

日時：令和3年8月21日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）  
参加者：7期生（6）、Zoom参加7期生（3）、講師（2）、ナビゲーター（5）、  
緑区社会福祉協議会（1）、サブナビゲーター（3）、事務局（3）  
合計：20人（Zoom参加：4人）

### ●学習目標

1. 各講義の中から「夢プラン」作成に役立つ事例を探し出す。
2. 区内にある各施設の役割を知る。（緑区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、みどり一む、みどり国際交流ラウンジ）
3. 「夢プラン」を作り実現するために必要な「ひろがり」と「時間」を学ぶ。
4. 受講生同士のコミュニケーションを図る。

### ●内容

- ・横浜市全体と緑区の地形図を見た。昔の物の流れ、人の動きは川と街道が主であったが、現在は自然な地形にクロスするように自動車道、鉄道が整備され都市化軸が出現し都市化が進行した。「ムラの軸・トシの軸」として緑区の成り立ちを学んだ。
- ・区内にある主な施設をピックアップして紹介。施設の場所、業務の内容、利用する時の申し込み方法等を説明し、誰もが気軽に相談に行ける場所であることを再認識した。令和3年3月にオープンした新しい「みどり国際交流ラウンジ」からラウンジが目指す多文化共生を知る機会となった。
- ・講師自身の活動の体験談は、7期生にとって活動を始める際のヒントとなった。仲間を集め、目的を伝え、一緒に行動するための苦労や楽しさを紹介した。
- ・トークセッションは、やや硬い雰囲気ではあったが、7期生全員が話す貴重な機会となった。Zoom参加の7期生も発言ができて少しずつコミュニケーションが育つことにつながった。



7期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」などを  
記入ください。

- 町の歴史を知ることと、具体的に知ること、どんな「夢プラン」を作っていくべきかの方向が若干見えてきたと思われま。区社協について知らないことが多いと気がつきました。
- 山路講師の講義が非常に面白く楽しいです。地域を知ることが地域愛を深めるという提言、大いに参考になりました。まさにその通りだと実感しております。
- 松岡さんのお話がとても参考になりました。まち普請実現のための『ゴールのイメージ』『みんなのもの』等『仲間を増やす』ため『ちょっとした声掛け』などは日ごろから実践していきたいと思いました。
- 様々な視野で地域の歴史や地形を知ることができた。また「自分の暮らす街を知ると好きになり、もっと知りたくなる」といった言葉を聞いたことが印象に残った。

◆感想を自由にお書きください。

- トコロジスト（地域の専門家）になることで仲間を増やすことが可能になると感じました。
- 国際交流拠点があることを知り視野が広がりました。具体的活動をもっとうかがいたかったです。
- トークセッションはもっとざっくばらんな雰囲気であれば、会話も活発になるのではないのでしょうか。
- 講師が過去に計画して実行したことをまとめた資料を読めてわかりやすかった。また、ポイントや目的が明確でわかりやすかった。



コメント欄（担当ナビゲーター：金子）

- 緊急事態宣言のためみどり一むの定員は20名となりZoom参加の7期生もいたが、開講式に比べると緊張感はやや薄れた印象であった。
- 各講師とも、持ち時間が足りず駆け足となった。講義の途中で、受講者から質問を受けるようなゆとりも必要だと感じた。
- 「ムラの軸とトシの軸」では、地形による村の成り立ち、都市化軸の形成を知ることができたと思う。
- 「夢プランを作り実現させるために」では、一つの課題に取り組み活動していくには、多くの仲間を集める「ひろがり」と一人ひとりの意見を聞いて、相手を認めて進めていく「時間」が、いかに重要であるかを改めて認識するものとなった。7期生が市民活動をスタートさせる基本となる学びであった。
- 1講、2講で得た知識を、今後の「夢プラン」作りのヒントに大いに役立てていくことを期待したい。

# 令和3年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

## 第3講「市民活動・地域活動」活動発表、自分の資源に気づこう

講師及び担当：活動団体（753プロジェクト、修了生）岡部、後藤、森

日時：令和3年9月11日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）  
参加者：7期生（7）Zoom参加7期生（1）、活動団体（2）、ナビゲーター（4）、  
サブナビゲーター（3）、事務局（3） 合計：19人（Zoom参加：3人）

### ●学習目標

1. 市民活動・地域活動の活動発表において、経験豊かな先輩から「活動のポイントや苦労・やりがい」について聞きます。
2. 「自分の資源」に気づくことで、「夢プラン」作成につなげます。
3. 受講生同士のコミュニケーションを図る場にしよう。

### ●内容

#### ▲第一部：「活動団体の話を聞こう」

##### 活動発表1：修了生（4期生）の米田弘子さん

スクール受講前からパンをマルシェや月に一度の自宅カフェで販売をしていた経験を持つ。ある出会いからスクールに参加。

自分の考えのベースとなっているフィンランドの教育についてや活動のつながりを紹介。「夢プラン」作成への思いから少しずつ形を変えながら地域活動に展開していることを発表した。

現在は、緑区社会福祉協議会の事業「お散歩カフェ」をはじめた。「お散歩カフェ」をやりながら「子どものお散歩カフェ」構想への閃きを語ってくれた。

活動は「人との出会い」が大切と7期生へ先輩としてメッセージを贈ってくれた。

##### 活動発表2：Co-coya 復活プロジェクト実行委委員会の大谷浩之介さん

活動の起点は何だろう。「小さくていいから始めよう 2. 楽しい、嬉しい、美味しいを動機にしよう」 2013年 753プロジェクトを立ち上げ、2015年 Co-coya となる物件が空家となったことから計画が動き出す。そして2020年「ヨコハマ市民まち普請事業」に応募し採択。「火」と「水」のある地域に開く居場所として整備が行われている。「思い、熱意を持ち続けるものは形は変化してもいい。自分が楽しい、うれしいという動機を大切にしてほしい」と7期生にメッセージを贈った。

▲第二部：「自分の資源に気づこう」 7期生ワークショップで「好きなこと（趣味）・得意なこと」を全員が発表した。3分間という発表時間がじっくりと話を聞く場となり、コミュニケーションを図る効果を生んだ。

7期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」などをご記入ください。

- 米田さんのフィンランドのお話で「ポジティブにあきらめるや資源のない国なので教育に力を入れている」は日本にも当てはまることで重要だと思った。
- 大谷さんの言葉で「小さくていいから初めて、何より継続すること、継続するためには楽しむこと。」まちで活動するとき、重要な姿勢なのですね。自分自身で取り組むときにも大げさに考えず、まずは出来ることから、楽しめることから始めよう、そう思うことができました。
- 米田さんの「夢プラン」がとても素敵だと思いました。大谷さんのお話で感じたのは活動の内容が素晴らしいと思う反面、採算が合うようにするのは難しそう、そのあたりが気になりました。
- 自分がまったく知らないところで様々なことが行われていて、それには決断力や行動力が大事だと感じた。

◆感想を自由にお書きください。

- 7期生の趣味や好きな事がわかり今後の「夢プラン」作成時の事前データとなった気がします。
- (Zoom 参加のため) 同期の皆さんの顔を拝見することができ、やっと会えた感がありました。会場でみなさんが手にしている資料があればと感じました。
- 人の前で自分のことを話すのはなかなか大変ですが少しずつ慣れていきたいと思います。
- みなさんの切り口が異なっていて多種多様な7期生が参加していることを改めて感じました。



コメント欄（担当ナビゲーター：岡部）

- 7期生は出席率がよく3講になって緊張感もほぐれた印象であった。
- 米田さんと大谷さんのお話がとても楽しく聞くことができた。非常に好評だった。
- 「自分の資源に気づこう」の7期生の発表時間がひとり3分に増えたため、ポストイットに記入しなかったことの話も聞けて7期生もスタッフも満足度が高かったと思う。
- 修了生の先輩の発表を聞いて、仲間づくりの大切さやつながりが学べたことがよかったと思う。



# 令和3年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

## 第4講 「夢プラン」作成ワークショップ①

講師及び担当：竹迫和代、神田ナビゲーター、田中ナビゲーター

日時：令和3年9月25日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）  
参加者：7期生（8）、Zoom参加7期生（1）、講師（1）、ナビゲーター（4）、  
サブナビゲーター（3）、事務局（3）  
合計：19人（Zoom参加：4人）

### ●学習目標

1. 「夢プラン」が大事にしていることは何か、作成前に理解する。
2. 受講者それぞれが何をやりたいと思っているのかにじっくり耳を傾け、それぞれの「夢プラン」作成にむけた情報交換を行う。
3. 自分がやりたいことを他者にもわかりやすく伝えるための設計書（夢プラン）の作り方、表現の仕方を学ぶ。

### ●内容

1. オープニングタイム
  - ・本日の主旨説明、ファシリテータの紹介&アイスブレイク（新聞紙パズル）
2. 夢プランにむけての芽だし&企画づくり（「私のやりたいこと」、「やりたいことが実現すれば、どんな人たちにどんな未来が期待できるか？」）
  - ・2人一組になって、上のふたつのお題についておしゃべりしました。
  - ・紙に「やりたいこと」、「未来のビジョン」を書き、ひとり2分発表しました。
  - ・発表内容に対して、受講生、ナビゲーターが感想やアドバイス等のコメントを付箋に書き、貼り付けました。
  - ・骨太シートの「ビジョン」「目的」「対象」「到達目標」「連携先」を考えました。
3. クロージングタイム
  - ・竹迫さんから本日のまとめのコメントがありました。
  - ・次回までに、夢プランを実眼するために、どんな社会資源が周りにあるか、必要か調べてくることが宿題となりました。



7期生がペアを組んで「新聞紙パズル」に挑戦！なごやかな雰囲気となった。



「私のやりたいこと」「未来へのビジョン」を7期生全員が発表した。

7期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」などを  
記入ください。

- みなさんのコメントを聞くことで自分のテーマを深めることができそうである。
- 自分の考えていたプランが抽象的なもので具体化させるにはハードルがあるなど感じた。具体化させるために、もう少し多様な場面から考えていきたいと思った。
- 自分の思いは大体まとまってきたが、本当に楽しくできるためにはもうひとひねりが必要に思った。
- 他の方の意見を聞くと考えが広がっていいと感じた。
- (7期生が) いろいろな問題意識を持ってさまざまな課題に取り組もうとしていることがわかった。
- やりたいことの多様性を知ることができて、自分の中にも見つけてみたい、見直してみたい。ナビゲーターの熱意あるアドバイスに後押しされました。

◆感想を自由にお書きください。

- ワークショップ形式での講座は、一方通行の講義では得られない感覚で臨むことができた。
- 地球温暖化問題はテーマが大きすぎるためポイントを絞るか、もうひとつのテーマについてもプランを作りたい。
- 歴史とか文化とかという言葉が若者にとって遠いものだという指摘もあり、正に目からうろこが落ちた思いで、考え方を大きく修正する必要性を感じた。
- 漠然としたイメージを、会話を通して具現化していくことの大切さを実感した。一人で考えるより、ずっと効果的だと思った。
- 人の意見を聞くことは、自分の案の改善につながってよかった。

コメント欄（担当ナビゲーター：神田）

- 第4講は Zoom 参加の1名を含め受講者全員が出席しました。7期生は出席率が高く、やる気満々だと感じました。
- 受講生各自が夢プランの「ビジョン」と「目的」を紙に整理し、発表したり、発表を聞いて、感想やアドバイスを付箋に書いたりするワークショップを行った後、骨太シートの1枚目を作成しました。
- 受講生が発表している時、田中さんが発表内容のキーワードを模造紙に書き込みましたが、発表を聞いた人がどの様に受け取ったかが分かり、参考になると思いました。
- 発表を聞いた受講生が感想やアドバイスを付箋に書き、模造紙に貼り付けましたが、どの発表にも多くの付箋がありました。他人の発表に対しても興味を持ち、一緒に考える姿勢が素晴らしいと思いました。
- コロナのため受講生が少なく、従来よりも受講生間、受講生と講師・ナビゲーター間のコミュニケーションが密でスムーズだったと思いました。
- 受講生がオンライン参加の場合、ワークショップが心配でしたが、それなりに対応できたと思いました。

# 令和3年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

## 第5講 「夢プラン」作成の情報交換と練り直し

講師及び担当：竹迫和代、 田中ナビゲーター、神田ナビゲーター

日時：令和3年10月16日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）  
参加者：7期生（5）、講師（1）、ナビゲーター（5）、緑区社会福祉協議会（1）、  
サブナビゲーター（2）、事務局（3）  
合計：17人（Zoom参加：4人）

### ●学習目標

1. 今日は夢プランの練り直し、現在の状況を一言で説明する。
2. 2人ペアで意見交換し、自分のプランを膨らます。
3. 「夢プラン」を骨太シートに記入して発表する。
4. 発表者にさまざまな意見や知恵を伝える。
5. 欠席者の補講を行う。

### ●内容

1. アイスブレイクでは「4講を終えて夢プランは今、何合目？」を7期生が発表、5講のスタートが打ち解けたものとなりました。
2. 2人ペアになり、イメージの説明、意見交換。その後グループに入ったナビゲーター、サブナビゲーターが7期生の計画を聞きアドバイスをを行いました。
3. 形になってきた考えを夢プラン骨太シートに記入し、竹迫講師は一人ひとりの声を聞き、視点を変えてみる指導も行いました。
4. 7期生は、模造紙に全員からのアドバイスをポストイットにもらい完成形を目指すことになりました。
5. 夢プラン提出前に補講を行なったところ、3名が出席した。各自、熱心に意見交換し、シートを作成していました。4講5講でもらった他の人の意見、感想が記されたポストイットが大いに役立った。



7期生とナビゲーター、サブナビゲーターが意見交換。夢プランをブラッシュアップした。



模造紙にシートを貼り、全員からの感想、アドバイスをもらう「夢プラン展覧会」を行った。

## 7期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



- （お散歩カフェ）

### ◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」などをご記入ください。

- 緑区社会福祉協議会の事業である「お散歩カフェ」をやることを決め、来春、開店することをみなさまにお約束させていただきました。
- 自分の考えを文字にするのはとても難しく教えてもらいながら「夢プラン」を書きました。とても勉強になり頭の中の整理もついた気がします。
- みなさまのご意見、アドバイスをいただき今までの自分の考えが一方向からであったことを認識しました。何を付加すべきか、どこ共同（協働）すべきかについてもアイデアを頂きました。
- 話したかった7期生と一緒にグループになることができよかった。一緒に活動できるように企画を話し合えたことに感謝いたします。
- 第三者から意見やアドバイスをもらうことで色々な角度から自分の意見が見られるので良い経験になりました。

### ◆感想を自由にお書きください。

- 誰と組むか、誰の夢プランと協働するか、今後の活動の幅が広がりそうな気がします。
- 最初に考えていた「（地域での）看取り」から大きく方向転換しましたが、真意に変わりはありません。
- ほかの人の意見を聞くのは楽しく勉強になりました。7期生のひとりとなつながら、ぜひ一緒に活動ができたらと思います。



### コメント欄（担当ナビゲーター：田中）

- 第5講は7期生4名が欠席したが、学びを深めることができた。
- アイスブレイクの「現在何合目」には明快に回答し、自信をのぞかせていた。
- 環境と福祉という違うテーマでも意見交換した7期生や憩いの場所と音楽という7期生もそれぞれの夢プランに耳を傾け、会話も弾みいい時間となり良かったと思う。
- 7期生は何か探し求めている、ナビ・サブナビとの質疑応答の中から何かに気づき、自信を持っていく様子が見て取れた。
- 「お散歩カフェ」が来春には実現プランとなることがわかり、全員の喜びにつながった。
- 5講のあと、補講を設けたところ3人が参加したことは良かった。難解な都市開発に取り組む7期生も補講に参加し、やる気が感じられた。今後もまとめの内容を聞き、意見交換の場が必要と感じている。
- 区社協の「お散歩カフェ」が「ひと・まち」からも誕生することは、地福計画「ささえ愛プラン」が目指す身近な見守りの拠点となることは評価できると思う。

# 令和3年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

## 第6講 修了式、夢プラン発表会

講師及び担当：名和田学長、山路講師、岡部、森

日 時：令和3年11月13日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）  
参加者：7期生（8）、名和田学長、講師、緑区社会福祉協議会、ナビゲーター（5）、サブナビゲーター（3）、緑区長、事務局（3）合計:23人  
Zoom参加：5（講師、修了生）

### ●修了式

- ・昨年と同様にコロナ禍での開催となりましたが、昨年の経験を活かしてして円滑な運営が出来た。
- ・7期生は9人と少なかった分、密度の濃い内容となった。また「7期生のひろば」を設けた事で受講者同志の交流も深くなり良かった。さらに、特筆すべきは10代の参加があったこと。今後も若年層の参加を期待したいと思う。
- ・全体的に既に具体的な活動内容がある人が多く受講生のレベルが揃っている感じがした。
- ・1講から5講までZoom参加の7期生が初めて6講で会場に来ることができ、全員があたたかく迎える場面があった。やはりリアルで会えることで人間性や本人の気迫が伝わってきて、仲間づくりには有効かなと個人的に思った。

### ●夢プラン発表会

- ・9人の内8名が出席して発表会に臨んだ。欠席の1名は事前に収録した動画で「夢プラン」を発表。  
「夢プラン」は、カフェ、音楽、地球環境、環境美化、歴史まち探検などの分野であった。来年春には実現したいという発表もあった。発表後には、名和田学長と山路講師から講評があった。

#### 名和田学長の講評

全体的に身の丈に合ったプランが多く好感がもてる。特に「活動のキッカケづくり」「絆」「仲間を増やす」「既存団体との繋がり」の工夫がみられました。これからの活躍に期待しています。

#### 山路講師の講評

修了式からが活動のスタートです。夢プランの実現に向けての3点を伝えたい。

- ・一人では難しいので仲間を増やす。楽しみながら活動できる仲間を増やす
- ・地域での具体的な実像（活動の中身）が見えるように心がける
- ・活動を広げるために仕掛けが必要。例：ガレージ、ウッドデッキ、犬との癒し等

## 7期生のアンケートより（抜粋）



- いろんな人から意見を募ることができてよい経験になりました。また、プレゼンや協調性など講義を通して身についたと実感しました。
- リモート参加にも対応していただき感謝です。
- 「ひと・まち」スクールに参加できて勉強になり、とても楽しかったです。自分では気が付かないことも回を重ねるごとにはっきりとしてきたように思います。緑区での人のつながりができとてもうれしいです。
- スタッフのみなさま、4か月に渡り支援をいただきありがとうございました。第7期生の方々は身近で魅力的なアイデアを持っていてとても参考になる点が多かったです。「継続は力なり」今後もみどり「ひと・まち」スクールが発展していくと思います。
- コロナの為にあまり受講生同士の交流ができなかったことが残念でした。街あるきなどを企画していただけたらぜひ参加して交流を深めていけたらうれしいです。
- かかわってくれたスタッフ全員がとても明るくて、スクールに参加するだけで楽しかったです。今後も今の雰囲気をもって、緑区の人材育成や生涯学習を育てていってください。



修了を記念して



夢プラン発表会



7期生代表答辞



会場と修了生をつなぐ

### コメント欄（担当ナビゲーター：藤村）

- コロナ禍での運営に関しては問題なく無事終了出来た事は評価できる。これは手前味噌ではありますがスタッフの尽力の賜物と思っています。
- 「交流の時間」は不可欠と痛感しました。今回「7期生のひろば」を設ける事によって受講生同志の絆も深まったと思います。リコーダー演奏とお散歩カフェのコラボは面白い発展。はじめてリアルで参加した7期生の「ポータルサイトを活用した情報発信」も期待出来る。拡がりを感じ取れる修了式だったと思います。
- 10代の参加は刺激的でした。来年も継続できる事を期待しています。